

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様とそのご家族の方へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	弱視を予測する角膜輪部デルモイドの評価法			
② 実施予定期間	研究実施許可後 から 2027 年 9 月 30 日			
③ 対象患者	対象期間中に当院で角膜輪部デルモイドで通院加療をしていた患者さん			
④ 対象期間	2012 年 9 月 1 日 から 2025 年 9 月 30 日			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院			
⑥ 対象診療科	眼科			
⑦ 研究責任者	氏名	木村 和博	所属	山口大学大学院医学系研究科眼科
⑧ 使用する情報等	研究対象者背景： 識別コード、初診時年齢、生年月、性別、原疾患、合併症、既往歴、現病歴 眼科検査： 視力検査（自覚的屈折検査）、他覚的検査、眼科検査所見、眼科画像データ（前眼部写真など）、角膜輪部デルモイドの大きさや位置など 手術を施行した場合の手術日や術式、術後の検査データ Dermoid angle			
⑨ 研究の概要	角膜輪部デルモイドは、角膜輪部に発生する先天性の良性腫瘍です。治療は主に整容面を目的とした手術ですが、整容的に気にならないければ手術を行わない選択もできます。しかし、角膜輪部デルモイドは時に角膜乱視を引き起こすため小児例では弱視を合併していることがあります。その場合は弱視治療を優先しますが、小児では視力や屈折値の評価が難しいことがあります。弱視の把握や治療開始が遅れることが課題となっています。 今回、私たちは Dermoid angle（以下、D angle）という新しい評価方法を考案しました。これは眼の写真を用いて、瞳孔の中心点からデルモイドと角膜輪部（黒目と白目の境）とが交わる 2 点に線を引き、それらが成す角度を表す数値です。本研究では、この D angle を使って、角膜輪部デルモイドの大きさや角膜乱視への影響を簡便に評価できるか、弱視への影響などを調べます。 研究に用いる情報については、④の対象期間に日常診療で得られた情報を特定の個人が識別できないように加工して使用します。			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2025 年 11 月 26日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。			

	詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	山口大学医学部附属病院眼科の奨学寄付金		
⑯ 利益相反	ありません。		
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 眼科 担当者：清野 公彰		
	電話	0836-22-2278	FAX 0836-22-2334